

平成20年度
上武大学教育研究センター一年報

「大学の質の向上を目指して」

目 次

上武大学教育研究センター年報「大学の質の向上を目指して」

第二号発刊に寄せて……………	学校法人 学文館 理事長 澁谷 朋子	3
第二号発刊にさいして……………	上武大学 学長 鈴木 守	4
第二号発刊に寄せて……………	上武大学 副学長 澁谷 正史	5

〔第1部〕活動及び自己点検

Activities and Self-assessment

平成20年度 自己点検……………	教育研究センター長 一戸 真子	9
質改善P-D-C-Aサイクルを拒む諸要因		
授業アンケート結果が示唆する大学の現状および教育改善へのヒント		
ー平成20年度後期学生授業アンケート分析結果から		

平成20年度 教育研究センターの活動内容

……………	教育研究センター 係長 福嶋 亘子	13
-------	-------------------	----

大学基準協会 認証評価説明会

「達成度評価と水準評価」

……………(財)大学基準協会 大学評価・研究部 審査・評価系 副主幹 山田 勉	25
(現 学校法人 立命館 総合企画部事業計画課 課長)	

平成20年度 上武大学 教育討論会

第1部 教育の質改善に向けた課題

◇ 総説「教育の質向上を目指して」……………	上武大学 副学長 澁谷 正史	33
◇ 教育の質向上に向けての取組み ー各学部長・研究科長の報告ー		
……………	教育研究センター 兼担 中村 雄司	38

第2部 パネルディスカッション

～アイデアを共有し、evidenceに基づく対応を検討する～

◇ 大学職員に求められるもの		
……………	企画広報部 部長 落合 春彦	50

◇ 大学の活性化に向けた課題

上武大学の退学者問題について考える

……………	企画広報部企画広報課 主任 矢島 一永	52
-------	---------------------	----

大学の活性化に向けた課題……………	経営情報学部 教授 谷崎 敏昭	54
-------------------	-----------------	----

大学の売りは『学生』であり『教員』であり『職員』である

……………	附属図書館分館 主査 天田 めぐみ	57
-------	-------------------	----

喜んで登校し生き生きと学ぶ大学を目指して

……………	大学院経営管理研究科 教授 西山 賢一	61
-------	---------------------	----

学生・社会人参加による公開講座等の拡大について

……………	ビジネス情報学部 教授 廣瀬 郁雄	64
-------	-------------------	----

臨地実習の現状と今後の課題……………	看護学部 准教授 滝沢 美智子	66
--------------------	-----------------	----

〔第2部〕連携及び研究

Collaboration and Research

〔産学連携〕

群馬ダイヤモンドペガサスとの連携事業について

ー観戦者を対象としたマーケティング調査の実施ー

.....ビジネス情報学部 講師 小野里 真弓 73

〔研 究〕

経営戦略と利益計画の連携 ー存続と持続可能な成長に向けてー

.....大学院経営管理研究科 研究科長 柴川 林也 80

会社法会計のゆくえ大学院経営管理研究科 教授 廣瀬 郁雄 90

ドラッカーと日本の経営大学院経営管理研究科 教授 谷崎 敏昭 95

〔大学院生による研究〕

米国の暖簾会計の歴史的変遷大学院経営管理研究科 修士課程 鈴木 香里 99

〔シーズ・地域連携〕

音楽で地域連携を経営情報学部 准教授 植松 盛夫 109

技術の種・連携の課題経営情報学部 准教授 黒澤 廣宣 113

研究活性化と社会参加教育研究センター長 一戸 真子 117

※プログラム順に掲載

[第1部]

活動及び 自己点検

Activities and
Self-assessment

[第2部]

連携及び 研究

Collaboration and Research

ISSN 1882-8302

平成20年度
上武大学教育研究センター年報 第2号

〔発行日〕 2010年9月10日

〔編集・発行〕 上武大学教育研究センター

〒370-1393 群馬県高崎市新町270-1

TEL・FAX 0274-42-4087 E-mail : jierdec@jobu.ac.jp



Jobu University

Education and Research Center

Annual Report 2008 No.2

Aim at improvement of Quality of the University